



2023

コングラント

アニュアルレポート2023

Annual Report



コングラントが目指す社会	2
代表メッセージ	3
事業概要	4
ロジックモデル	5
数字で見る2022年度	6
2022年度のファンドレイジング事例	7
助成プログラム実施結果	12
企業とNPOをつなぐ取り組み	15
コラム)なぜNPOが必要なのか	16
コラム)NPOになぜ寄付が必要なのか	17
語句説明	19

VISION 2030

あらゆる困難に寄付が届く世界の実現

コングラントは日本と世界の「あらゆる困難に寄付が届く世界を実現する」というビジョンがあります。誰しも人生の中で困難があり、不運・不平等な困難もあります。国・行政では支援が届かない困難に寄付が届くインフラを構築していきます。



MISSION

挑戦するすべての寄付を支える

NPO・ソーシャルセクターが困難を抱える当事者に支援を届け、同時に、必要な資金をファンドレイズするのは困難を極めます。私たちの使命は、寄付集めの挑戦と成功の障壁となっているあらゆる課題をなくし、挑戦する人の気持ちと共に活動していくことです。



SOCIAL IMPACT

NPO・ソーシャルセクターで
活動する人々が増幅し、その支援活動が
日本の隅々の当事者までいきわたる。

▶▶ インパクトの測定 ◀◀

活動する人々の総量

活動する団体の総量

寄付者、寄付額の総量

収入の総額

活動の変化



日本の隅々の当事者まで、支援がいきわたる社会に。

コングラントとして初めてのインパクトレポートを作成しました。レポートに関心をお寄せいただきありがとうございます。コングラントの代表者として、これからコングラントが実現していく未来を共有させてください。

コングラントは2017年末にサービスを開始し、現在2,100を超える団体が常時利用いただいています。現在、年数十億円の寄付者の想いが流通するサービスに発展しました。サービス開始当初は決済システムのみでしたが、その後多くのお客様からのご要望によって「認定NPO」に必要な機能までを次々と拡充してきました。今後、事業費決済や各種CRM・クラウドサービスとの連携など、NPO経営に必要な機能をリリースしていきます。

ここから先の未来について、コングラントはもっと次の時代の「新しい中間支援組織」のような存在を目指しています。既存の中間支援組織とは異なる「デジタルとテクノロジー」を活用した新時代の中間支援組織・プラットフォームとしての活動を拡大していくことに社員共々ワクワクしています。私たちの目的は、NPO・ソーシャルセクターで「活動する人」「支援する人」が増幅し、日本国内の隅々の「当事者」まで支援がいきわたる社会にするためです。単に便利なシステムを提供するだけではなく、「活動する人が世の中からもっと認められること」「寄付金から運営に充てることが弊害なく実施できること」「業界で働く人の収入が増えること」「業界の関係人口が増加すること」、そしてこれらの変化を多くの人々が認識する社会の空気感をつくっていく

ことです。そのためにコングラントが新・中間支援組織として実行できることはすべて行っていきたくと思います。

その一環で、先日社内に寄付等の調査研究チームを組成しました。また企業との連携強化のために1年準備してきました。新しい一手として企業とNPOをつなぐ新事業の開始準備を進めており、これはNPO業界にとって大きな前進になると信じて、社運を懸けて進めています。

時々、ワクワクと不安が入り混じる不安定な状態があります。コングラントは本当に社会に必要なのか、この先に本当に業界の発展に寄与できるのかという不安です。そんな時にいつも団体の活動のお話を聞くようにしています。普通に生活していても想像することができない困難を抱えた当事者の現状を知ることができます。そこからいつも「なんとかしたい」「役に立ちたい」というエネルギーや勇気をもらっています。理想形まではまだまだ時間がかかりますが、NPO・ソーシャルセクターの皆様にとってよきパートナーになれるよう日々努力を続けていきたいと思っています。引き続きコングラントの成長にご期待ください。ありがとうございます。

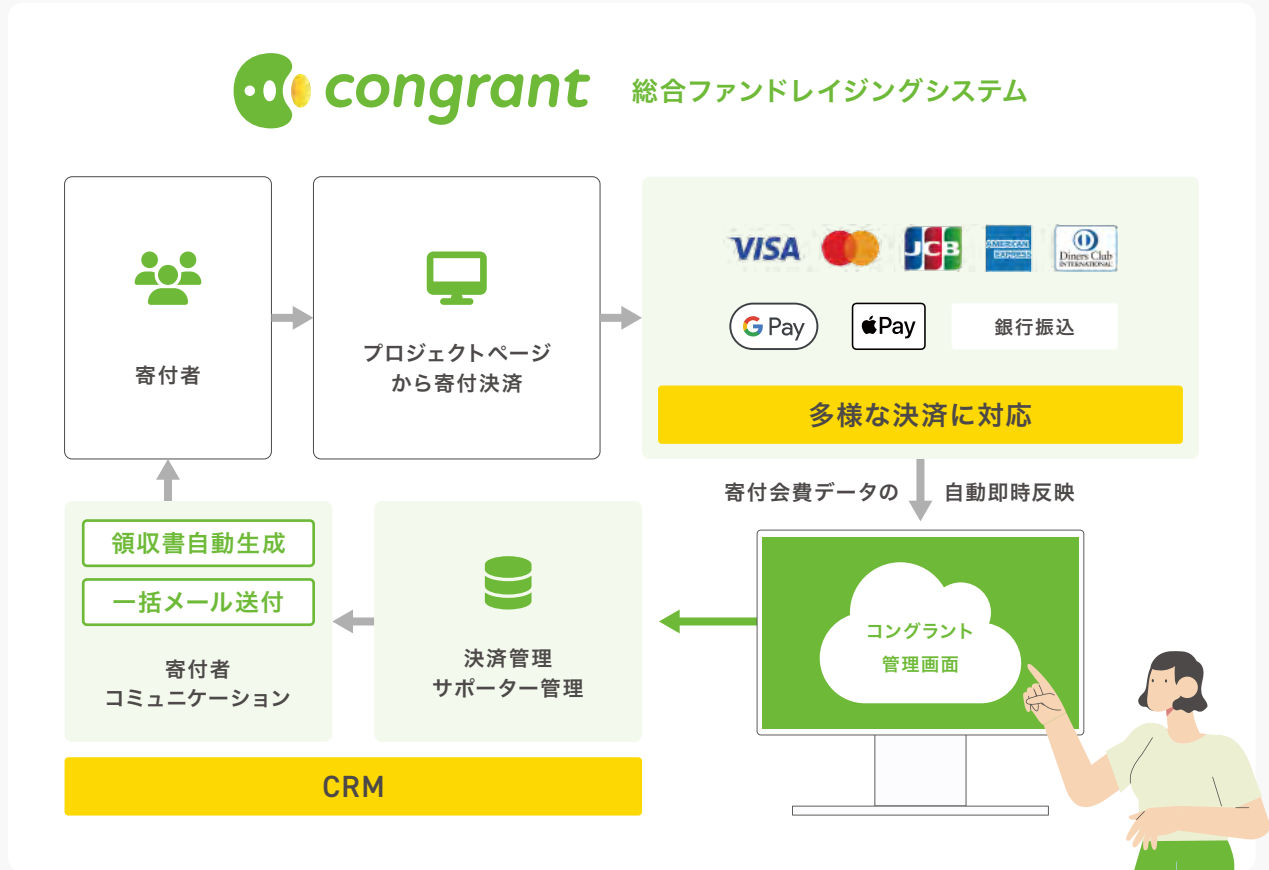
コングラント株式会社
代表取締役・CEO
佐藤 正隆



サービス

コングラントのサービスは非営利活動を行う組織が寄付募集を行うために必要なシステムを提供すること、そして寄付募集を支えるための助成プログラムを提供することです。

小さな団体から中規模以上の団体まで、幅広くカバーする日本国内で唯一の総合的なファンドレイジングサービスです。



伴走支援



ファンドレイジング コツ100選

動画で学ぶファンドレイジング

助成プログラム

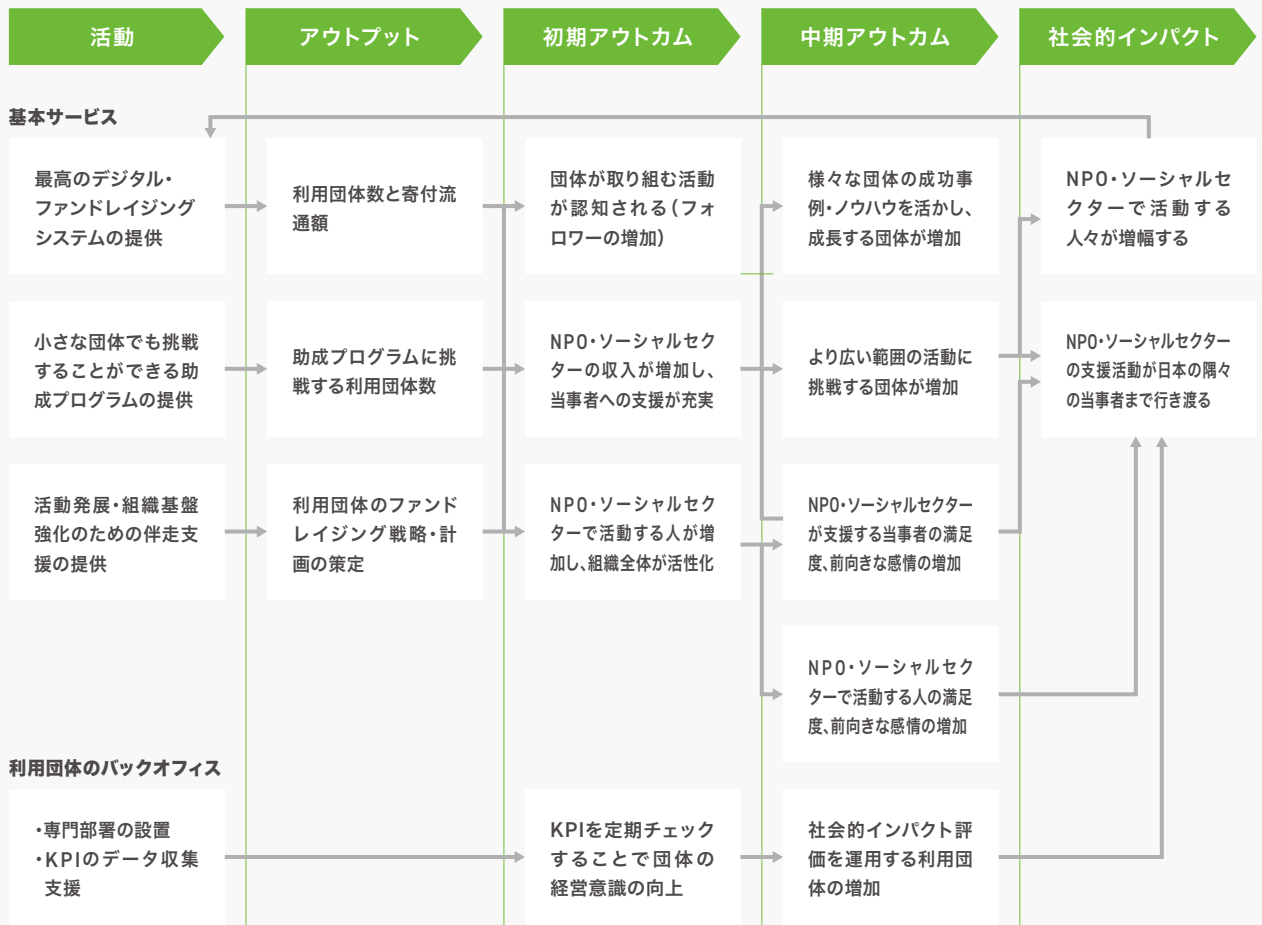


NPO・ソーシャルセクター向け寄付決済システムコングラントは、すべての非営利組織のためのサービスです。法人格を問わず、社会課題に取り組むすべての組織で利用が可能です。クレジットカード決済が可能だけでなく、寄付募集から決済、寄付管理・領収書発行等のCRMをワンストップで提供するシステムです。

各団体が作成するプロジェクトページからクレジットカード、銀行振込に加えてApple Pay、Google Payで寄付決済ができます。また、寄付者及び決済情報は団体が操作する管理画面に自動で即時反映されます。

管理画面からは決済データに紐づいた領収書を自動に生成・送付することができ、メールでの自動送付も可能です。さらに、支援者に対して一括でメール送信できるなどコミュニケーションツールとしても活用することができます。

NPO・ソーシャルセクターで活動する人々が増幅し、 その支援活動が日本の隅々の当事者までいきわたる。



NPO・ソーシャルセクターの多くは活動の持続・発展のためにファンドレイジングが必要です。寄付金、会費等の自由度の高い収入を確保することで、解決したい課題や当事者への支援を充実させることができます。しかしながら、多くの団体が資金面に課題を抱えているのが現状です。

国・自治体の助成金・補助金が先細りしていく中で、ファンドレイジングによる寄付金・会費等で収入を拡大していくことはNPO・ソーシャルセクターにとって急務であると言っても過言ではありません。同時に、一連の資金調達活動を通じて、広報力・経営力を向上させていくことも必要です。

コングラントが提供するサービス

最良のデジタル・
ファンドレイジングシステム

小さな団体でも挑戦することが
できる助成プログラム

活動発展・組織基盤強化の
ための伴走支援

NPO・ソーシャルセクターのためのデジタル・ファンドレイジングシステム「コングラント」を開発し、寄付募集・決済・CRMなどファンドレイジング・経営に必要なすべてをワンストップで提供しています。NPO・ソーシャルセクターはこれまでに無い圧倒的なスピードと低コストでシステムを導入することができ、資金調達の向上と業務効率を実現しています。また、独自の経営支援として助成プログラムも多数実施し、システム面だけでなく組織基盤からNPOの経営力向上に取り組んでいます。

NPO・ソーシャルセクターのファンドレイジング力(経営力)が向上することで、団体の活動を活性化させると同時に、活動する人々も前向きな気持ちに変化し、活動する人々が増幅します。その結果、NPO・ソーシャルセクターの支援活動が日本の隅々の当事者までいきわたるという変化を起こします。

2022年度末時点で、コングラントをご利用いただく団体数は1,602団体となりました。2021年度末と比較して、1.44倍となっています。また、寄付流通額は17億円、寄付件数は23万件となり、過去最も多くの寄付が集まった1年となりました。

利用団体
1,602 団体
21年度: 1,111団体

寄付流通額
1,759,920,783 円
21年度: 912,460,962円

寄付件数
231,782 件※
21年度: 125,765件

※ 延べ数

コングラント利用による効果

2年以上継続してコングラントを利用いただいた団体の1年間の寄付額は21年度と比較して平均約1.5倍、継続寄付者は約1.3倍になりました。

寄付額増加率※
54 %

継続寄付者の増加率※
35 %

※ 21年度、22年度の2年間継続してコングラントを利用した714団体の平均値

クラウドファンディング

2022年度は125件のクラウドファンディングが実施され、総額7億円以上の寄付が集まりました。コングラントのクラウドファンディングは目標金額の達成の有無にかかわらず寄付金を受け取れるAll-in形式のため、すべてのプロジェクトの寄付が団体に届けられています。

実施件数
125 件

寄付総額
729,973,310 円

マンスリーサポート

毎月の自動決済による寄付(マンスリーサポート)の寄付総額は3.3億円、寄付者数は1.6万人でした。21年度と比較して寄付総額は約1.8倍となりました。

寄付者数
16,513 人

寄付総額
332,342,352 円

コングラントアワード2023

2022年度にコングラントにて公開された901件の寄付募集ページのうち応募のあった90ページの中から、社会課題の背景や活動の詳細、団体の想いがぐっと伝わる魅力的なページを6件選出。多くの方々に見ていただきたく、クラウドファンディング部門、マンスリーサポーター部門として表彰いたします。

● クラウドファンディング部門

一般社団法人手話エンターテイメント発信団oioi 様 <https://congrant.com/project/oioishuwa/5106>



手話の魅力を知り、多くの人に関心を持ってもらうためのパフォーマンスライブを無料で開催するためのプロジェクトです。



支援総額 **584,000 円**
サポーター数 **113 人**



代表理事 岡崎伸彦 様

皆様のご支援のおかげで群馬県に新しい手話コミュニティが誕生し、2023年11月で1周年を迎えることができました。ありがとうございます！この成功事例を他の地域にも展開させ、さらなる手話普及を目指してまいります！



コングラントより
GOODポイント！

- ・実行者の想いがぐっと伝わる
- ・活動と一緒に楽しめるリターン設計
- ・活動報告が丁寧

一般社団法人つくろい東京ファンド 東京アンブレラ基金 様 <https://congrant.com/project/umbrellafund/5794>



住まいを失った難民や仮放免状態に置かれている方々の状況に対応するため、無償の住居提供を開始するためのプロジェクトです。



支援総額 **8,502,000 円**
サポーター数 **675 人**



コングラントより
GOODポイント！

- ・ページ全体の構成が分かりやすい
- ・画像が工夫されていて見やすい
- ・当事者の課題がよく伝わる

特定非営利活動法人School Voice Project 様 <https://congrant.com/project/schoolvoicepj/5418>



学校が元気になり、現場の声がもっと社会に届くようになるための独立Webメディア「メガホン」の立ち上げのためのプロジェクトです。



支援総額 **2,515,000 円**
サポーター数 **251 人**



理事・事務局長 武田緑 様

「教職員が元気になれる」「学校を応援したくなる」そんなメディアをつくろう！という挑戦に多くの支援をいただけて本当に嬉しかったです。今後はさらに多くの方にアクセスいただけるメディアに育てていきます。



コングラントより
GOODポイント！

- ・現場目線でプロジェクトの必要性がよく伝わる
- ・ファーストビューだけで内容が分かる
- ・画像が綺麗で見やすい

● マンスリーサポーター部門

認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ 様 <https://congrant.com/project/musubie/755>

みんなが安心して行ける場所となるよう環境を整えるため、全国の子ども食堂の活動を支援するためのプロジェクトです。



広報・ファンドレイジングチーム 南谷友香 様

子ども食堂やむすびえの取組に共感し、継続的にご支援して下さる皆様の存在がとてありがたいです。皆様と共に、子ども食堂の支援を通じて、誰も取りこぼさない社会をつくる事を目指し活動を推進していきます。



！ コングラントより
GOODポイント！

- ・図が分かりやすい
- ・読みやすい情報量とストーリー
- ・Q&Aが丁寧

特定非営利活動法人Alazi Dream Project 様 <https://congrant.com/project/alazi/4948>

西アフリカ、シエラレオネ共和国の10代のシングルマザーの現状を取り巻く社会変革を前進させるためのプロジェクトです。



代表理事 下里夢美 様

アラジは、今年の3月で10周年を迎えますが、約360名のマンスリーサポーターさまや、200名を超えるボランティアの皆さまに力強く支えられ、延べ2004名の子どもたちに復学の機会を提供してまいりました。

この受賞をさらに励みにして、今後も世界最貧国の西アフリカ、シエラレオネの子どもたちのために寄り添った支援を行ってまいります。



！ コングラントより
GOODポイント！

- ・数字を使った記述で信頼性がある
- ・受益者の写真で支援の届け先がイメージしやすい
- ・スマートフォンで見やすい団体らしさ溢れるデザイン

特定非営利活動法人School Voice Project 様 <https://congrant.com/project/schoolvoicepj/5176>

学校をボトムアップで変えていくプラットフォームの活動を継続・発展させていくためのプロジェクトです。



理事・事務局長 武田緑 様

「学校を支えることで子どもたちを支えたい」という多くの有志の方にサポーターになっていただいております。感謝でいっぱいです。

今後はさらに仲間の輪を広げ、活動基盤を充実・安定化させていきたいです。



！ コングラントより
GOODポイント！

- ・参画しているスタッフの想いが伝わる
- ・いくらで何ができかが分かりやすい
- ・画像が見やすく見栄えが良い

● 特別部門

コングラントアワード2022
ご紹介ページ

惜しくもクラウドファンディング部門、マンスリーサポーター部門の受賞には至りませんでした。団体の想いがよく伝わり、随所に工夫が見られるプロジェクトページを作成されている27団体をWEBにて紹介しております。

<https://congrant.com/jp/news/congrantawards2022.html>



デジタル・ファンドレイジングシステムの提供事例

2022年度に、conggrantのファンドレイジングシステムを活用したファンドレイジング事例をご紹介します。

社会福祉法人福井県共同募金会 様



<https://conggrant.com/jp/akaihane-fukui>

寄付者の応援が直接、福井県で活動する非営利組織に届けられるよう寄付ができる「赤い羽根クラウドファンディング」を実施されました。2022年度は17の非営利団体が参加し、計5,239,236円の寄付が寄せられました。

conggrantでは、デジタル・ファンドレイジングシステムの提供のほか、ランディングページの制作、クラウドファンディングに関するセミナー実施、クラウドファンディングの伴走支援を担当いたしました。



次長補佐
鷹尾大英 様

ご担当者様コメント

赤い羽根クラウドファンディングサイトを立ち上げました。

はじめは寄付金を募る事に戸惑っている団体が多かったのですが、conggrantのスタッフによるファンドレイジングセミナーや定期的な相談会が成功要因になりました。



奥田彩花

スタッフコメント

初めて寄付募集に挑戦する団体が多い中、セミナーで基本のクラウドファンディングの作法を覚えた上で、3ヶ月のクラウドファンディングに挑戦しました。福井県内の複数の非営利団体が集まり、他団体と学びを共有しながら切磋琢磨して取り組むことができ、寄付募集をしたことがないという団体にとっては、このスキームは大変心強かったのだと思います。寄付募集の裾野を広げられるよう、他の自治体・中間支援組織様にもぜひ広げていただきたいです。

特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム 様



<https://www.japanplatform.org/index.html>

連携企業からテレワーク環境下での社員募金の取り組みについてご相談が多くあり、2020年からconggrantを活用して、企業ごとにオリジナルの社員募金ページを作成するという取り組みを実施されています。

これまでにウクライナ人道危機や、トルコ・シリア地震などをはじめとして、多くの企業の社員さまにご支援をいただき、大切な活動資金として各支援プログラムに活用されました。

ご担当者様コメント

conggrantは募金ページ作成の自由度が高く、ロゴや社員様へのメッセージを掲載するなど、企業のご要望に応じたオリジナルの募金ページを作成することができています。支援活動の様子などもページ内でお伝えできるので、より多くの社員さまが支援活動に共感し、社員募金のお取り組みに参加してくれるようになりました。企業担当者さまからも、「募金の取りまとめの手間がかからず管理が楽になった」、「寄付者が見える化するため、次の施策を検討する材料にもなる」とご好評いただいています。



中居慶穂

スタッフコメント

ウクライナ人道危機やトルコ・シリア地震など大規模災害や緊急事態が発生した際は、いち早く連携企業様とのプロジェクトページを立ち上げられ、寄付募集を開始されています。多くの企業様において実施されているこの社内募金のかたちが広がり、より多くの企業において実施されることを願っています。

公益財団法人日本対がん協会 様



<https://relayforlife.jp/selfwalk/2022/>

がん経験者に寄り添い歩く、リレー・フォー・ライフ(セルフウォークリレー)を実施されました。セルフウォークリレーへの参加費(寄付)はコングラントのプロジェクトページを通じて行われました。

なお、セルフウォークリレーはチャリティウォーキング専用のスマホアプリ「minpo」を用いて実施されています。



リレー・フォー・
ライフマネジャー
是澤聡子 様

ご担当者様コメント

がん患者・家族の支援とがん征圧をめざすチャリティ活動「リレー・フォー・ライフ」に新たに加わった支援活動として、2022年は44団体が参加、がんサバイバー支援を胸に5,399人が参加し、地球約16周分に相当する8億1,221万歩を歩きました。お預かりしたご寄付は日本対がん協会の「がん相談ホットライン」の運営に充てられます。新しいリレーの形として今後も継続してまいります。



村田和士

スタッフコメント

イベントに参加した個人の参加費と参加者の歩数に応じて寄付をする特別協賛企業からのマッチング寄付で歩くことが寄付になるチャリティウォークを実施されています。参加者にとって寄付をすることがハードルに感じる方でも歩くことが支援になる仕組みは新規支援者を巻き込みやすいという側面があります。

京都市 様



<https://kyoto-art-donation.com/about.html>

コングラントでは初の自治体の寄付募集として、京都市様が「Kyoto Art Donation」を実施されています。

Kyoto Art Donationは、コロナ禍でダメージを受けた京都の文化芸術を回復させるべく、寄付という形によって京都で活動するアーティストや団体を支援しています。

コングラントでは、単発寄付、マンスリーサポーターの募集に加えてクラウドファンディングも募集されました。

ご担当者様コメント (京都市文化芸術企画課 担当係員)

政令市では初となる新たなチャレンジの第一歩をコングラントさんにサポートいただきました。「社会全体で文化芸術を支える」好循環が京都から全国へ広がっていくことを願ってこれからも取り組みを進めてまいります。



佐野友希衣

スタッフコメント

コロナ禍の影響で一度は危機に立たされた京都の芸術文化ですが、京都市様は全国から個人・法人の垣根を超えて広く寄付を募集され、京都で活動するアーティストまで届ける仕組みを構築されました。

この人から人へと支援を繋ぐ取り組みが、京都から全国にも広がり、日本の文化芸術活動がより一層豊富なものになることを願っています。

活動発展・組織基盤強化のための伴走支援

コングラントNEXT

コングラントNEXTは、年間寄付1,000万円を目指すファンドレイジング実行支援サービスです。ご契約団体様のうち、3団体の事例をご紹介します。

認定特定非営利活動法人ジャパンハート 様



クラウドファンディング実施にあたっての以下の業務

- クラウドファンディングの骨子、ページ作成
- 広報計画の作成
- 広報に関わる制作物の作成（呼びかけメール、チラシ等）
- SNS運用
- 効果測定

支援の成果 期間:5/26~9/30

- 目標金額:
ファーストゴール:8,000万円
ネクストゴール:1.2億円
- 最終寄付額:125,875,100円
- 支援者数:1,046人

ご担当者様コメント



マーケティング部
メディア担当
松本 愛 様

同じチームの一員として一大プロジェクトを並走いただきました。企画案や発信の方法など丁寧にご提案いただきありがとうございます。本プロジェクトを通じて皆様にご教授いただいたノウハウを活かし、日本発のNGOとして最高の挑戦に挑み続けたいと思います。

スタッフよりコメント



奥田彩花

新病院のコンセプトやクラウドファンディングの骨子の作成から一緒させていただき、新病院の価値をいかに伝えるか時間をかけて話し合いました。公式LINEやSNSで動画を活用するなど、新たな試みにも挑戦できました。1.2億円の目標達成おめでとうございます！

特定非営利活動法人日本子ども支援協会 様



里親が養育に専念できる環境を整えることで、子どもと親に愛が循環する社会の実現を目指しています。

主な支援内容

WEBサイトやONE LOVE
オンライン里親会の運営の
業務代行を行っています。

支援の成果

ご契約開始当初から比べ、
ONE LOVEオンライン里親
会の参加人数は4倍以上に
増加しました。

ご担当者様コメント



代表理事
岩朝しのぶ 様
Photo:寺尾公郊

運営・業務・寄付集め、マンパワー不足、スキル不足の団体に対し様々な事に伴走くださり、団体がより質の高い活動が出来るように導いてくれます。これは他の決済システムには無い、他の業務委託にもない、『唯一無二のパートナー』です。

NPO法人DAREDEMO HERO 様



フィリピンの貧困問題の根本解決のために、貧困がゆえに勉強ができない子どもたちに教育支援を行っています。

主な支援内容

ドリームサポーター(毎月
寄付者)や里親会員(毎
月・毎年寄付者)の募集支
援を行っています。

支援の成果

ご契約開始当初から2022
年度末時点で継続寄付者
の数は約2.5倍に増加しま
した。

ご担当者様コメント



理事長
内山順子 様

現場での活動と日々の事務作業に追われていた時、コングラントと出会い、客観的に自団体を見つめなおし、支援者様と新たな信頼関係を築くことができました。今後もご支援者様に、支援をしてよかったですと思ってもらえる団体を目指していきたい。

あなたの気持ちを100%届けるクラウドファンディング

GIVING100 by yogibo

決済手数料0%のクラウドファンディングで集まった寄付額は107,887,783円



<https://congrant.com/jp/yogibo>

GIVING100(ギビングハンドレッド)by Yogiboは寄付金が100%届く社会課題解決型の寄付クラウドファンディングです。

クラウドファンディングでは通常9~20%の手数料が発生します(クレジット決済手数料、サイト運営費、サポートの人件費等)。株式会社Yogiboとのスポンサー契約により、決済手数料が0%になる仕組みを実現しています。

総寄付額
107,887,783 円

サポーター数
7,458 人

目標金額達成率
73.4 %

GIVING100実施団体例

メロドッグレスキュー 様



<https://congrant.com/project/mellowdogrescue/5450>

特定非営利活動法人市民活動さぽーとねっと 様



<https://congrant.com/project/hofusaponet/5399>

一般財団法人ちくご川コミュニティ財団 様



<https://congrant.com/project/chikugogawa/5709>

NPO法人TMAT 様



<https://congrant.com/project/npotmat/6114>

新たな20人の募集を目指す無償セミナー&伴走プログラム

マンスリー寄付挑戦プログラム

5団体が2ヶ月で106人の継続寄付者を獲得



<https://congrant.com/jp/monthlydonation.html>

安定的な収入であるマンスリーサポーターの募集は、非営利団体の経営の基盤・活動の発展に繋がりますが、多くの団体にとって募集が難しくハードルが高いものです。本プログラムでは一次助成のセミナーと二次助成の実践的な伴走支援で、マンスリーサポーター20名の募集を通じて、マンスリーサポーター募集の土台を作ることを目指しています。また、Congrantを積極的に活用いただいている団体に「アドバイザーボード」としてご協力いただき、ノウハウの提供とともに、団体相互の学び合いの機会をつくっています。

第1回マンスリー寄付挑戦プログラムでは、一次助成を9団体に、二次助成を5団体に提供

一次助成セミナー満足度

4.5 (5段階)

獲得サポーター数※

106 団体

※二次助成先5団体

1次助成

マンスリー寄付募集の先輩団体が届ける無料セミナー

成功のノウハウのみならず、失敗談やPDCAサイクルを回していく重要性、SNS発信、支援者コミュニケーションなどを伝授しました。

2次助成

マンスリーサポーター20人募集を目指す伴走支援

マンスリーサポーター20人の獲得を目指し、ターゲット設定の見直しや広報物の準備、呼びかけを2ヶ月で実施しました。

アドバイザー団体

(第1回マンスリー寄付挑戦プログラム)



一般社団法人リーチ奨学育英会様



公益財団法人 CIESF 様



特定非営利活動法人 Alazi Dream Project 様



特定非営利活動法人 SET 様

助成団体

(第1回マンスリー寄付挑戦プログラム)



一般社団法人
家庭教育研究機構 様



一般社団法人青少年養育
支援センター陽気会 様



一般社団法人
ロングスプーン協会 様



一般社団法人
ワンジェネレーション 様



特定非営利活動法人 アンリーシュ 様



認定特定非営利活動法人
ケアット 様



特定非営利活動法人
地雷廃絶日本キャンペーン 様



特定非営利活動法人
DV対策センター 様



特定非営利活動法人
トランス 様

小さな団体の寄付募集応援プログラム

目標金額達成で、conggrant年間利用料最大2年間相当を助成



<https://congrant.com/jp/fundingprogram.html>

対象団体は前年度の寄付会費の合計収入が500万円未満の社会課題解決に取り組む非営利団体を対象に、2023年1月から本プログラムを開始しました。

対象期間(2023年4月～2024年1月)のファンドレイジングにおいて、申請したコースの目標金額を達成した団体に、2.5～10万円の助成金を支給しています。

総額最大

1,000 万円

参加団体数

34 団体

コース別参加団体数

- ・目標金額 25万円コース | 助成額 2.5万円 10団体
- ・目標金額 50万円コース | 助成額 5万円 8団体
- ・目標金額 100万円コース | 助成額 10万円 16団体

PEACE WALK supported by 日本寄付財団

日本全国から20,000名以上が参加、延べ20団体へ1,800万円を寄付



<https://congrant.com/jp/peacewalk/index.html>

PEACE WALKは「平和に向けて歩きだそう」のコンセプトのもと、世界中で紛争や内戦などの被害にあわれている方々に「歩く」ことで支援を届けるオンライン参加型のチャリティーウォーク企画です。日本寄付財団様、大塚製薬様、カネカユアヘルスケア株式会社様をスポンサーに迎え、紛争解決や難民支援に取り組む団体、延べ20団体へ寄付を届けました。

- ・第1回 PEACE WALK 2022年6月18日～7月1日
- ・第2回 PEACE WALK 2022年8月23日～9月4日

参加者数

24,273 名

歩み

2,354,444,627 歩

寄付総額

18,415,164 円

参加団体(第1回・第2回)

NPO法人アクセプト・インターナショナル

NPO法人WELgee

NPO法人パレスチナ子どものキャンペーン

NPO法人RAFIQ(在日難民との共生ネットワーク)

公益財団法人ケア・インターナショナル ジャパン

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

認定NPO法人ADRA Japan

認定NPO法人国連UNHCR協会

認定NPO法人テラ・ルネッサンス

認定NPO法人難民を助ける会(AAR Japan)

認定NPO法人ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン

認定NPO法人ピースウィンズ・ジャパン

認定NPO法人メドゥッサン・デュ・モンド ジャパン

認定NPO法人REALs(Reach Alternatives)

認定NPO法人ワールド・ビジョン・ジャパン

※五十音順・敬称略

2022年5月より企業向けサービスの提供開始、 2,989万円の寄付をNPO団体に紹介



企業の寄付・社会的投資と従業員エンゲージメントを同時に実現する

自社に適した支援先NPOを探すための情報が不足する企業と、法人にアプローチする為のリソースが不足する非営利団体の双方の課題を解決するため、企業向けサービス「Congrant for Business」の提供を2022年5月より開始しました。「自社の本業に適した寄付先がわからない」「寄付先を兼務の担当者だけで選定するのは難しい」「従業員や顧客を巻き込んで社会的インパクトを拡大したい」などの企業担当者が抱える課題を解決し、小さくても重要な社会課題に取り組む団体に資金が循環する社会の実現を目指します。



Congrant
for Business
公式サイト

主な導入実績



企業とマッチングした団体数

78 団体

紹介した寄付金額

29,898,944 円

事例 1

8ヶ月で2,300万円以上の寄付流通に貢献

GIVING for SDGs sponsored by ソニー銀行

国内銀行初の投資型クラウドファンディング「Sony Bank GATE」などを展開されるソニー銀行株式会社様と連携し、国内の認定・公益法人格を持つ非営利団体のクラウドファンディングを応援する企画「GIVING for SDGs」を実施しました。ソニー銀行公式サイトやサービス利用者向けのメルマガで参加団体の活動を紹介していただき、2023年2月の開始から8ヶ月で寄付流通総額が2,300万円を突破し、クラウドファンディングに挑戦した75%のプロジェクトが目標金額を達成しました。



事例 2

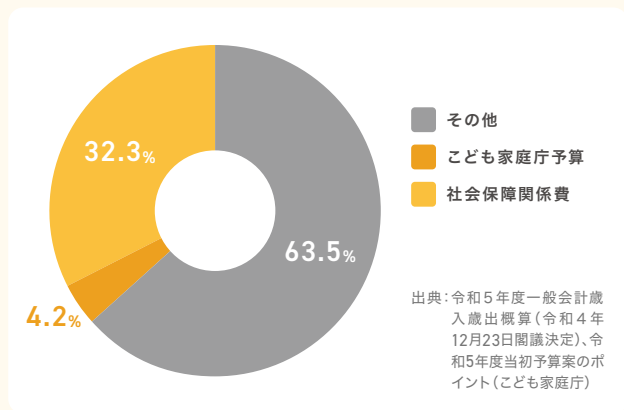
1年で1,400人以上からの寄付流通に貢献

ぶらす8` by 関西テレビ放送

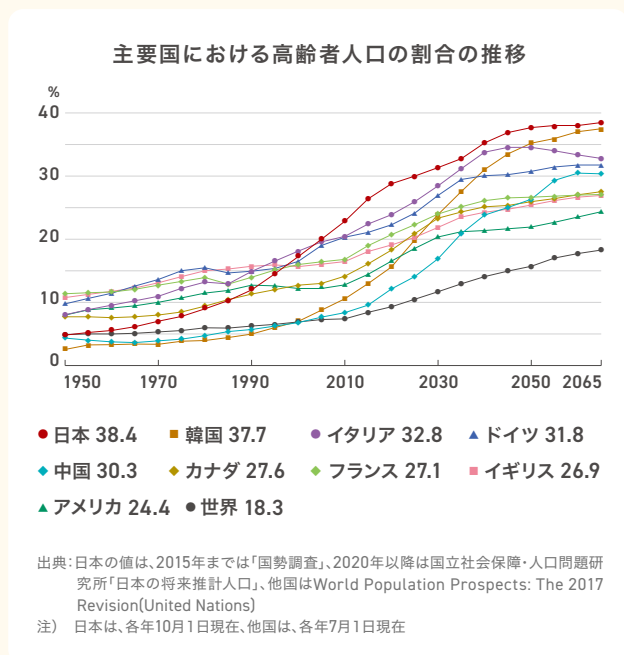
関西テレビ放送株式会社と連携し、関西地域で社会課題の解決に取り組む団体のクラウドファンディングを応援するプロジェクトを実施しました。関西テレビ放送様からは団体の活動を紹介するショート動画の作成、公式SNSアカウントでのプロジェクト紹介、目標金額達成時の取材記事作成によって広報活動をサポートいただき、1年間で1,430人以上から1,400万円以上の支援を集めることができました。



現在、日本は少子高齢化が進む中、時代の変化や技術の進歩とともに、様々な社会課題に直面しています。気候変動や過疎化による空き家問題、子育てについての問題など、多くの社会課題がある中、政府は2023年に新たな省庁であるこども家庭庁を発足し、子ども・若者への支援に注力することとしました。一方で少子高齢化に伴い社会保障関係費は増大を続けており、下のグラフの通り子ども・若者への十分な支援は難しい現実があります。

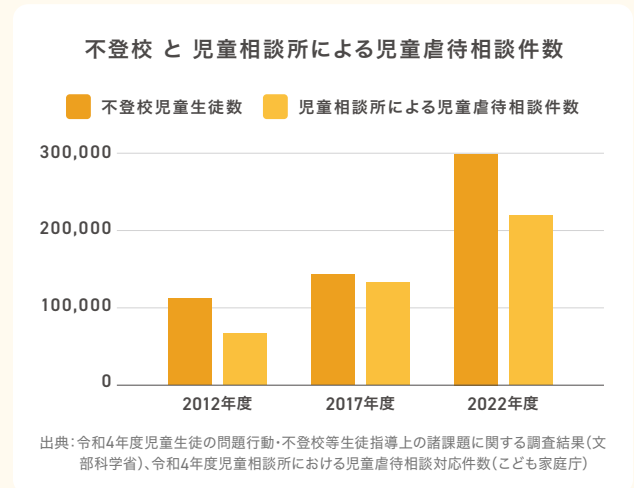


さらに、少子高齢化については、下のグラフの通り今後も回復が見込めず、他国に例を見ない速度で進行することが予想され、社会課題解決のための政府の支出は難しくなっていくことが見込まれます。



そうした中で、子ども・若者は厳しい状況になっています。児童相談所への児童虐待相談件数は2020年度に約20.5万件、不登校の小中学生数については2021年度に約24.5万人とともに過去最多を記録しました。

また、現在、約7人に1人の子どもが貧困状態であることに加え、いじめの認知件数や小中高生の自殺者数も過去最多となっています。



児童虐待や不登校の問題もさることながら、社会課題は複雑化・多様化しています。

現在、日本は社会保障費が増大していく中、増え続ける社会課題に対応していくことが求められる難しい局面を迎えています。そうした状況において、政府は「新しい公共」という考えの下、社会課題解決の担い手としての役割をNPOを中心とする非営利団体に期待しました。

NPOに係る制度改革の変遷

1998年：「特定非営利活動促進法(NPO法)」成立

2001年：認定NPO法人制度の創設

2008年：認定NPO法人の認定要件の大幅緩和

2012年：「新しい公共」を打ち出し、認定

NPOへの寄付実施時の税額控除制度が始まる

2016年：改正NPO法の成立。特例認定NPO制度を創設。

上の表はNPOにおける法改正の変遷を示したものとなります。少子高齢化やそれに伴う社会保障費の増大が見込まれる中、2012年においては認定NPOに寄付をした場合に行われる税額控除制度などが新たに創設され、さらには2016年には特例認定NPO制度も創設されました。

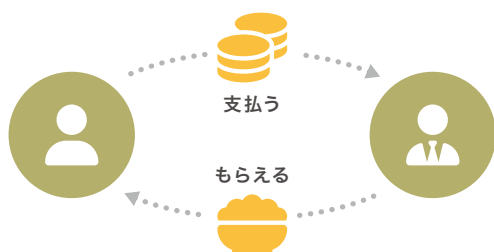
特定非営利活動促進法の成立から2023年で25年となりますが、「新しい公共」を打ち出した2012年以降に制度の抜本的な改正が続いています。

上記のことから、NPOをはじめとする非営利団体に対する期待は高まっていると弊社は考えます。

前ページでは、NPOをはじめとする非営利団体の必要性について見てきました。次はNPOをはじめとする非営利団体になぜ寄付が必要なのかについて見ていきたいと思います。

初めに、非営利団体は一般的なサービスと仕組みが異なることから資金確保における難しさがあります。それは多くの非営利団体は受益者負担ではないサービスを提供しているからです。

一般的なサービスのしくみ



これを**受益者負担**といいます

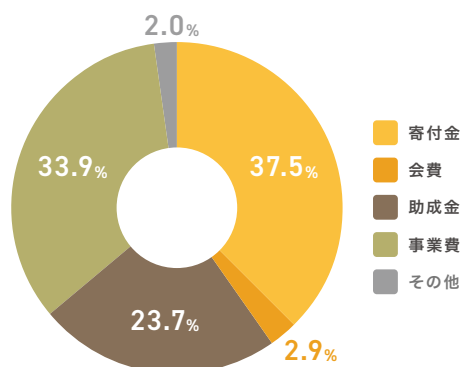
受益者負担ではないサービスのしくみ



上の図のように、一般的なビジネスやサービスでは、サービスを受ける人(受益者)と対価を支払う人(負担者)が一致しています。非営利団体においては、受益者が社会的な課題を抱えており、受益者が対価を負担できない状態であることが多くなっています。

そのため、活動やサービスに係る資金を寄付などで賄っていく必要があります。

次の図は弊社が提供している認定NPOデータベースを元に2020年度における1,176の認定NPO全体の収入割合を算出したものとなります。

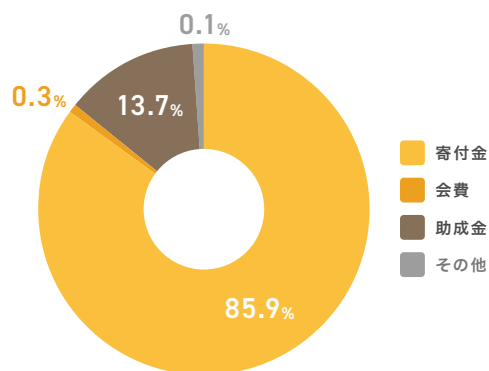


出典:認定NPOデータベース

認定NPOにおいては、事業費の収入よりも寄付金の収入の方が多くなっています。

少子高齢化の進行などにより、助成金などの収入が見込めない中、多くの非営利団体がファンドレイジングに努めています。が厳しい資金状況となっています。

一方で多くの寄付金を集めている団体があります。下のグラフは弊社が提供している認定NPOデータベースのうち、寄付金額の大きい、国際的な組織で海外に本部を置く4団体の2020年度における収入割合となります。



出典:認定NPOデータベース

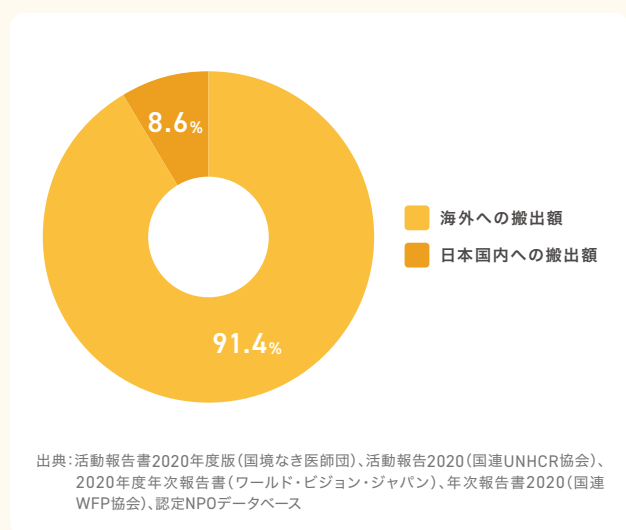
認定NPO全体の収入割合と比べて、寄付金割合が非常に大きくなっています。さらには、4団体の寄付金額の合計は残りの1,172団体の寄付金額の合計を上回っています。

前ページでは日本国内の様々な社会問題について見てきましたが、世界に目を向けると、国連や各国政府では対処の難しい問題がたくさんあります。水に関する問題や飢餓に対する問題、難民支援などは国際的な組織で海外に本部を置く団体でないと解決できない問題だといえるでしょう。

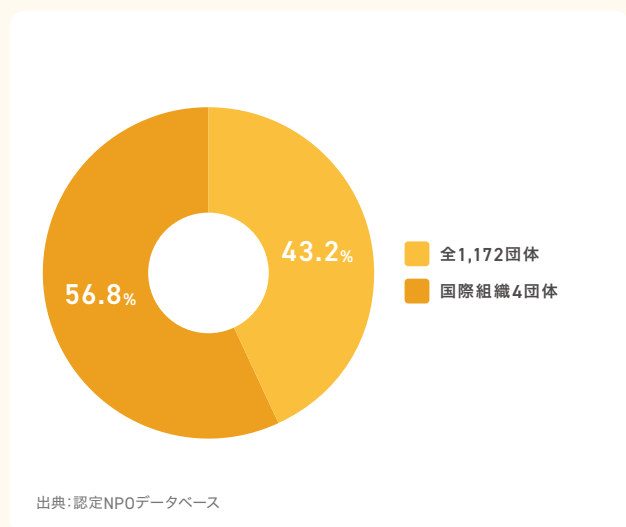
次に、国際的な組織で海外に本部を置く団体に集められた寄付金の拠出先について見ていきます。

下のグラフは、2020年度における国際的な組織で本部を海外に持っている国境なき医師団、国連UNHCR協会、ワールド・ビジョン・ジャパン、国際連合世界食糧計画WFP協会の本部へ拠出された金額の合計と日本国内で拠出された金額の合計を比較したものです。

合計の拠出額は約248.7億円ですが、そのうち91.4%にあたる約227.3億円が本部へ拠出され、残りの約21.4億円(8.6%)が日本国内の運営費などに使われています。



さらに、前のページで述べた4団体の寄付額の合計と残りの1,172団体の認定NPOの寄付額の合計を比べると、下のグラフのようになります。



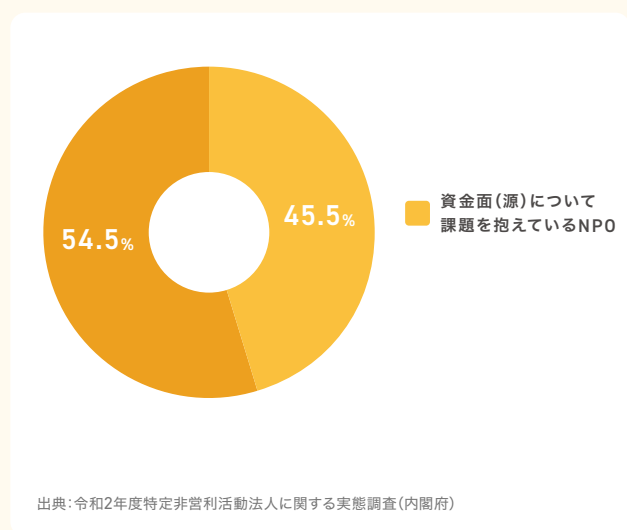
4団体で2020年度における認定NPO全体の寄付額の約56.8%を占めており、他の1,172団体の合計を上回ります。寄付を通して、国際的な組織で海外に本部を置く団体を支援

し、世界で起こっている様々な問題に向き合っていくことは今後も必要だと弊社は考えます。

しかし一方で、現在では日本国内においても、子ども・若者を中心に社会課題が山積みである状態です。

弊社としては大規模な団体に比べると知名度は劣るものの、国内の社会課題に取り組む団体の活動を伝え、各団体のファンディングに貢献することで社会課題の解決を図っていきたく考えています。

最後に、内閣府が行った非営利団体に対する調査について見ていきたくと思います。



上のグラフは令和2年度に行われた内閣府による調査結果で、45.5%のNPOが資金源についての課題を抱えている状態です。

さらに、調査によると約4割はボランティアに現金や謝礼の支給はしていない状況であり、活動の担い手であるNPO常勤職員の年収の中央値と日本の平均所得においては2倍以上の差がある状態です。

今の状態が続くと、多くの団体が非営利活動を継続することが困難になり、政府が推進している「新しい公共」についても実現できなくなってしまう。

高齢化が進行する一方で社会課題が多種多様化する中、弊社としてはその最前線で活躍する非営利団体の活動をファンディングを通して支えていくことが必要だと考えます。

当事者

その事柄に直接関係している人のことです。

NPO

出典: <https://www.npo-homepage.go.jp/about/npo-kisochishiki/npoiroha>

「NPO」とは「Non-Profit Organization」または「Not-for-Profit Organization」の略称で、様々な社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し、収益を分配することを目的としない団体の総称です。

したがって、収益を目的とする事業を行うこと自体は認められますが、事業で得た収益は、様々な社会貢献活動に充てることになります。このうち、特定非営利活動促進法に基づき法人格を取得した法人を、「特定非営利活動法人(NPO法人)」と言います。NPOは法人格の有無を問わず、様々な分野(福祉、教育・文化、まちづくり、環境、国際協力など)で、社会の多様化したニーズに応える重要な役割を果たすことが期待されています。

ソーシャルセクター

出典: <https://cococolor-earth.com/social-sector/>

ソーシャルセクターとは社会課題解決を目的とした組織・団体の総称であり、非営利のみならず営利団体も含まれます。

NPO・ソーシャルセクターで活動する人

組織の理事・有給職員だけではなくボランティア、プロボノ、支援者も含めた組織に関わって活動するすべての人を「活動する人」と定義しています。

ファンドレイジング

出典: <https://jfra.jp/pdf/koudoukijyun.pdf>

民間非営利団体が行うファンドレイジングは、単にその活動資金を調達することではなく、支援を募る家庭を通じて、より多くの人たちに社会の課題を示し、理解と共感を得て、その課題解決への参加者を増やして社会をより良くしていくことです。

クラウドファンディング

出典: 認定ファンドレイザー講座(日本ファンドレイジング協会)

群衆(クラウド)と資金調達(ファンディング)を合わせた造語で、特定のプロジェクト実施に対する資金をオンラインで募るもので、寄付型だけでなく、投資型・購入型などもあります。

マンスリーファンディング

マンスリーファンディングは、募集期間と目標人数を設定して、マンスリーサポーター(毎月寄付者)を募集するためのプロジェクト種別です。

社会的インパクト

出典: https://simi.or.jp/social_impact/about

「短期、長期の変化を含め、当該事業や活動の結果として生じた社会的、環境的なアウトカム」のことです。社会的インパクトの特徴として、4つのポイントを挙げています。

- 長期的な結果のみではなく、短期でも変化は生じる。
- 大規模な取り組みによるものだけでなく、小規模のものや一人の心理的变化なども含む。
- 数値化(定量化)されたものだけでなく、定性情報でも表すことができる。
- ポジティブな変化だけでなく、ネガティブな変化も含む。

ロジックモデル

出典: https://simi.or.jp/tool/logic_model

ロジックモデルとは、事業が成果を上げるために必要な要素を体系的に図示化したものです。一般的なロジックモデルの図は事業の構成要素を矢印でつなげたツリー型で表現され、「インプット」「活動」「アウトプット」「アウトカム」と4つの要素で図示されます。

アウトカム

出典: https://simi.or.jp/social_impact/about

事業や取り組みのアウトプットがもたらす変化、便益、成果のことです。事業や取り組みの実施後の直接、間接の影響として、受益者やその周辺や関係者、または取り組みのターゲットに現れてくる変化を指します。受益者であれば、知識・意欲・行動・態度・スキルなどの変化、制度であれば政策変更などがあります。

KPI

出典: <https://www.nri.com/jp/knowledge/glossary/lst/alphabet/kpi>

組織の目標を達成するための重要な業績評価の指標を意味し、達成状況を定点観測することで、目標達成に向けた組織のパフォーマンスの動向を把握できるようになります。仮に、目標値からギャップが生まれた場合には、組織行動が当初想定の方角に向かっていないことを意味し、活動の修正が必要です。



挑戦するすべての寄付を支える



conggrant・アニュアルレポート2023

発行元 | conggrant 株式会社

設立 | 2020年5月11日

所在地 | 〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀1-22-17 江戸堀イーストビル6F

congrant.com/jp/